

令和2年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

生徒指導研修会

11月25日(水)

講師 コミュニティハウス ひとのま 代表 宮田 隼 氏
 演題 「ひとのまの実践からみえてきたこと」



コロナ禍の影響で延期していた「生徒指導研修会」を、11月25日(水)に教育文化センター4階ホールで開催しました。講師には、コミュニティハウスひとのま 代表 宮田 隼 氏をお迎えし、「ひとのまの実践からみえてきたこと」と題して講演をいただきました。

「コミュニティハウスひとのま」とは、宮田氏が高岡市に開いた一軒家です。「人と人との交流が生まれる場所」であることを願って、365日カギをかけず、来た人は誰でも居られる場所として開かれています。

宮田氏は、個人塾を営む中で不登校の子供をもつ保護者から相談を受け、家以外の居場所が必要だと感じて「ひとのま」を開いたそうです。不登校の小・中・高校生だけでなく、ひきこもりやDV、生活困窮等、様々な困難を抱えた大人からの相談にも応じる中で、いくつかの大切なことに気づいたと話してくださいました。



- 不登校や引きこもりは、幼い時に本人が出しているSOSをしっかりキャッチすることで防げるのではないかと。(SOSは、上手に話せず、言葉にできないモヤモヤのときもあるので、丁寧に聞く)
 - 「自分で考える・決断できる・行動できる・責任がもてる」ということは、とても幸せ
⇒それを奪われるということは、実は不幸なことではないか。
 - 人の人生に責任を負える他人はいない。本人が責任を負うしかない。
⇒どれだけ「あなたのため」と言って助言をしても、その人は責任を取らない(取れない)。
- ↓
- ◎ 大人の「正しい価値観」に苦しめられている子供が、たくさんいる。
押し付ける前に、立ち止まって一回じっくり話を聞いてみるのも必要かもしれない。

参加者の感想の一部を紹介します。

- 宮田氏のお話を聞いて、自分の対話を見つめ直したいと強く思った。子供のためと言いながら、自分の考えを一方的に押し付けてきたことが多かった。宮田先生の言葉にあった「本人がどう思っているか、どうしたいか」という子供の心の声をもっと聞ける人間になりたいと思った。
- 特に子供たちとのコミュニケーションのとり方では、決めつけて話を聞くのではなく、じっくり話を聞いてあげることが大切だと感じた。今の学校現場では、じっくり話を聞く時間、心のゆとりというもの少なく感じるが、できる限り、子供への対応を自分なりに考えながら、今回の講演を今後に生かしていきたい。
- 「ひとのま」は小さな社会のような存在だと感じた。いろんな年代の人がいて、いろんな境遇の人がいて、そこでじっくり話を聞いてくれる人との会話を通して気づき、またいろんな人の人生を知って、自分の在り様を考える場になっていると思った。そのような関わり合いの場が、人の成長に必要なのだと感じた。
- 「こんな自分になったのは、お前たちのせいだ!」という相談者が発する言葉が、とても印象的だった。学校でも、小さなSOSに気付けるように、相手が抱えている思いを丁寧にきちんと聞くこと、そして納得できるよう落としどころを見付けるために、一つ一つのことに本人がどう思って、どうしたいのかに耳を傾けることを心がけたいと強く感じた。

子供たちと向き合う姿勢を今一度見つめ直し、児童生徒理解について改めて考えるきっかけとなったのではないかと感じました。

学力向上研修会

11月5日（木）開催

演 題 「国語科における授業づくりや指導の工夫」

講 師 富山国際大学子ども育成学部 教授 仲井 文之 先生

初めに富山県や氷見市の学力の実態について共通理解した後、YouTubeで授業動画を視聴し、「よい授業」のイメージを捉えました。視聴した授業は国語科でなかったのですが、その後のグループ協議では、教科を超えた授業の「よさ」を見いだしている先生方の発言が多く見られました。

話したくてたまらない子供の姿、うなずきながら身を乗り出して聞く子供の姿に感銘を覚えるとともに、「子供たちの『話したい気持ち』を妨げているものが、自分（教師自身）の中にあるのではないかと」と自らに問い、教師の「聞く姿勢」について改めて考えた先生も多かったように思います。

子供が主体的に学ぶ国語科の授業とはどのようなものか？それはどのような手立てで実現されるのか？参加された先生方の問題意識が高まった研修会となりました。



＜参加者の感想＞

- ・生徒の学びを支える中核は授業にあり、日々の授業の質の向上を図ることが大切であると改めて認識した。言語活動の中核を担う教科として、他教科の学習にも生かしていける授業を心がけたいと思う。
- ・視聴した授業では、「既習を生かす」「比較する」など、教科なりの「見方・考え方」を育てていると感じた。教科の本質に関わる学びができれば、子供は楽しく学習できるのではないかと。国語科でも「言語的な見方・考え方」が育つ授業づくりを行いたい。
- ・「児童生徒の学習を妨げているものは、市販のワーク・ドリルである」とのお話をうかがい、はっとした。あるものに頼るのでなく、その単元で学ぶべき内容を明確にして指導することが大切であると知った。教材研究を十分に行い、自信をもって自作テストを作ることのできる指導力を付けていきたい。
- ・コロナ禍で研修の機会も少ない中、今日の研修会のようにいろいろな先生方と話をし、貴重な経験談を聞くことができたのでうれしかった。

氷見市「ネット対策フォローアップ事業」

講師：富山県警察本部 少年女性安全課 少年サポートセンター 少年警察補導員

11月13日（金）開催

会場：氷見市立西條中学校

11月20日（金）開催

会場：氷見市立窪小学校

11月13日（金）は西條中学校、20日（金）は窪小学校において、氷見市「ネット対策フォローアップ事業」を行いました。コロナ禍の影響もあり、今年度は県警本部から講師にお招きして、ネットトラブルについての理解を深め、未然防止を図ることを目的に講演を開催しました。

西條中学校では2年生が参加し、軽い気持ちでネットを利用したことで個人情報が出たり誹謗中傷を受けたりすること、自分の写真を撮って送るよう強要される自撮り被害が増えていることについて、具体的な事例を交えた話を聞きました。

窪小学校では5、6年生と保護者が参加し、オンラインゲームでのトラブルや長時間のネット利用による健康への悪影響についても話がありました。児童からは実際の事例について等いくつも質問があり、意識の高まりが感じられました。



＜児童生徒の感想＞

- ・「ネットルールを守るとは、自分を守ること」という言葉を聞いて、本当にその通りだなと思いました。ネットへの意識はこのような教室があっても日がたつにつれて薄れていくと思うので、ネットを使用するときは今日学んだことを振り返って、大丈夫かどうかを自分で判断したいです。
- ・インターネットがとても便利なもので危険なものだと改めてよく分かりました。だから、知らない人に個人情報を教えたり自分のことを写したりしないなどのことを守りたいです。年々被害児童生徒数が多くなっているので、インターネットを使うときは十分気を付けたいです。

各学校でも、ネットルールの確認や家庭との連携をより一層進めていただきたいと思います。

「指導と評価の一体化」のための学習評価について

～学力向上講演会（11月17日） 文部科学省教科調査官（算数）笠井健一先生の講演より

今年度、県教委主催の学力向上講演会は、国語科、算数（数学）科、理科に分かれ、参加者数を絞っての開催となりました。その中で、笠井教科調査官の講演から、算数科における学習評価について簡単に紹介します。

観点別学習状況評価の進め方

① ねらいに応じた評価項目の精選と、記録に残す評価場面の精選

主に「努力を要する」状況と考えられる児童の学習状況を確認し、その後の指導に生かすために評価する（指導に生かす評価）機会と、学級全員の児童の学習状況について、総括の資料とするために記録に残す評価を行う機会とを区別する。

② 観点に応じた適切な評価方法の選択と、各時間における評価場面の精選

観点	評価方法	評価の機会の設定と具体的な姿
知識・技能	児童の活動の様子やノート等の記述内容の観察 ペーパーテスト など	◇単元末に「記録に残す評価」の機会を設定する。 ◇しかし、単元末のみで評価するのではなく、毎時間の机間指導等において、個人解決時におけるノートの記述内容や、適用問題も交えながら児童の学習状況を把握し、特に「努力を要する」状況と考えられる児童には確実に習得できるように指導し、個々の児童の指導の補完を行うことが大切である。
思考・判断・表現	児童の活動の様子やノート等の記述内容の観察 など * 1	◇単元末ではなく、単元の評価規準の評価内容ごとに、授業中の問題発見や解決の時間に、「記録に残す評価」の機会を設定する。 ◇次のような姿から評価の情報を収集する。 ・授業中の発言や話し合いなどの活動の様子 ・個人解決時の問題解決の様子 ・適用問題や活用問題の解決の様子や学習感想などの振り返りといったノート等の記述内容
主体的に学習に取り組む態度	児童の活動の様子やノート等の記述内容の観察 など	◇授業中の問題発見や解決の過程において、次のような姿に表れる。 ・既習事項を活用する ・話し合いの中で他者の意見を参考にする ・振り返ってよりよい表現や方法を考える ・新たな問題場面を見いだす ・日常生活の場面において活用しようとする

* 1 「思考・判断・表現」の評価のための情報を単元末のペーパーテストで収集する際には注意が必要

演算一回で答えるような文章問題（例【問題1】）について、式が立てられているだけなら通常「知識・技能」で評価する。「知識・技能」をもとに、余りの処理を判断するといった内容（例【問題2】）であれば、ペーパーテストを用いて「思考・判断・表現」を評価することもできる。「思考・判断・表現」の評価については、ペーパーテストだけでなく、あくまで授業中の問題発見や解決の過程において記録された情報をもとに評価することが望ましい。

詳しくは『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）に具体例とともに述べられています。ぜひ目を通され、授業改善や児童生徒の学力向上に生かしていただきたいと思います。

【問題1】
27mのなわを4mずつ切って、なわとびのなわをつくりまします。
何本とれて何mあまりありますか。
(式) (答え)

【問題2】
子どもが30人います。4人乗りの車に分かれて乗ります。
みんなが乗るには、車は何台あればよいですか。
答えの理由も書きなさい。
(式) (答え)
(答えの理由)

お知らせ

「ENGLISH セミナー2020」の開催



- ・日時 12月25日（金）10:00～12:00
- ・内容 中学生による英語での校区紹介プレゼンテーション&ALTのクイズタイム
※中学生のプレゼンテーションは、後日、共有フォルダで視聴できます。
中学生や小学校6年生の外国語科の授業でご活用ください。

おすすめ図書の紹介

小学校では今年度より新学習指導要領が完全実施となりました。中学校では来年度からの実施です。教育総合センターでは、先生方の研修に役立つよう、今年度数々の書籍を購入しました。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版社



本資料では、学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等について解説しているほか、各教科等別に単元や題材に基づく学習評価について事例を紹介しています。一人一人の学習評価及び、学習評価を含むカリキュラム・マネジメントを円滑に進めるためのヒントになります。

※小中学校の各教科と特活を揃えました。

新刊図書いろいろ

新刊本の一部です。喫緊の課題や学級経営、授業改善に関する書籍を充実しました。是非、ご一読ください。

